

単元名 「古代の日本」 (第1学年 B (1) 古代までの日本)

■本事例のポイント

1. 単元計画を柔軟にデザインすることで、生徒が古代の日本の特徴を示す「視点」に着目しやすいためにした。
2. 単元の終末に時代の特徴をまとめる時間を設けることで、古代の日本を大観できるような深い学びを目指した。

■単元の目標

東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目し、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる事を通して、古代の日本を大観し、その特色を多面的・多角的に考察・表現する。

■単元の指導計画（10時間）

第1小单元（4）

「日本ではどのようにして律令国家が形成されていったのか」

- ・大和政権の支配の広がりを理解する。
- ・聖徳太子らの政治の特色を理解する。
- ・律令制度の特色を理解する。

第2小单元（6）

「大陸から伝わった文化や制度は、日本の社会にどのような変化をもたらしたのか」

- ・律令制度の仕組みを理解する。
- ・平安時代の政治の特色を理解する。
- ・奈良時代と平安時代の文化の特色を理解する。
- ・古代の日本の特色をまとめる。

■本時の概要

【学習課題】

日本の歴史における「古代」は、どのような時代といえるだろうか。

【学習活動】

① 前時までの学習内容を振り返る



② 単元の学習範囲にある「キーワード」を整理する



③ 自分なりのまとめ方を決める

☆生徒の「学習調整」の場面☆



④ 「古代の日本」の特徴について
プリントにまとめる

歴史の学習においては、「時代を大観する」という視点で学習を進めていくことが重要になります。



「時代を大観する」ために必要な情報（キーワードなど）を、既習内容から整理する時間を設けています。



■指導と評価の工夫

①深い学びにつながる単元計画をデザイン

- *「古代の日本」の特徴をつかみやすくするために、中項目を、人類の誕生～弥生時代／古墳時代～平安時代というように、大きく2つに区分。
- *「どのような政治が展開されたか」という視点に着目して考察することで、古代という時代を大観する深い学びへとつながる。
- *教師にとっては、評価規準が明確になり、生徒の学びの姿が具体化されることでより丁寧な形成的評価ができる。

②生徒自らが学習形態やまとめ方の種類を選択

- *課題解決のための情報収集の活動において、単独、ペア、グループなどの学習形態を生徒が自由に選べるようにした。



分からることは近くの友達に聞いてみて、参考にしよう！



困っている友達と一緒に考えて、課題を解決していく！

子供が学び方を選択・決定する場面の設定

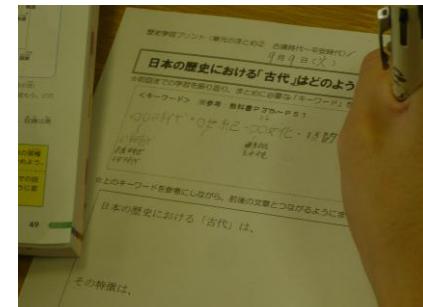
■学習調整をしている子供の姿



この生徒は、単独での学習形態を選択し、教科書をじっくり見ながら、課題解決に必要なキーワードを探しています。



グループでの学習形態を選択した生徒たちです。意見交換の途中で教師を呼び、課題解決のヒントになるようなアドバイスを求めていました。



この生徒は、教科書内のキーワードを時代、文化、世紀、政治などに分類して、まとめる時の参考になるように工夫しています。



■学習調整をしている子供の姿

〈表形式〉

日本の歴史における「古代」は、
木権力を持った人や物が「国づくり」した
(天皇、貴族、豪族)
時代である。

その特徴は、

	特徴	政治	文化
古墳時代	・古墳文化 ・大王を中心とした連合政権をつくった。 ・鐵や進んだ技術を求めて自給と同盟を結んでコウクリ・シラギなど	・大王を中心とした連合政権をつくった。 ・大和政権	・渡来人
飛鳥時代	・蘇我氏の勢力を強めて政治を独占していた。	・律令基づく政治を行なう國家	・公地公民
奈良時代	・律令国家のまつた都として平安京がつくられた。 ・唐の影響をもよおした	・平安京を中心とした政治を行なった	・天平文化
平安時代	・994年に現在の京都に平安京がつくられた。この跡は奈良時代から平安時代にかけての都城である。	・聖徳太子の政策によるもの ・平安京を中心とした平安朝政	・莊園

〈解説式〉

日本の歴史における「古代」は、
位の高い(権力を持った人)が政治を進めて時代を変えていった。
天皇や貴族
時代である。

その特徴は、
〈古墳時代〉
豪族の中から選ばれた大王を中心に連合して大和政権をつくった。
・鐵や進んだ技術を求めて自給と同盟を結んでコウクリ・シラギなど

戦った
〈平安〉
・天皇を補佐する閑白という職に就いて政治を動かしていった。
・隋は律令という法律を整えて役人を学科試験で選ぶ制度を始めた。
・律令に基づく政治を行う国家。律令国家。唐の律令についた大宝律令

〈聖徳太子〉
・摄政として天皇の政治を助けている。
・聖徳太子は天皇を中心とする政治にはりめ、役人としての構えを説いた。

〈箇条書き式〉

日本の歴史における「古代」は、
天皇や豪族を中心とした国づくりが行われた
時代である。

その特徴は、
大和政権・豪族の中から選ばれた大王を中心に連合し、大和政権をつくった。

聖徳太子…朝延では冠位十二院の制度が定められた。
十七条の憲法をつくった。

聖武天皇…国分寺と国分尼寺、都には東大寺を建て、金剛の大仏を造らせた。

藤原氏…他の貴族を退けて勢力を強めた。
藤原氏は娘を天皇の后にして、その子を幼いうちから天皇の位に就けることで、朝延の実権を握った。

「文章でまとめるのが苦手だから、表でまとめたい」という理由で表形式を選択したAさん

「色を使い分けて、見やすいようにきれいにまとめたい」という意欲をもって解説式を選択したBさん

「キーワードごとにシンプルにまとめてみたい」という理由で箇条書き式を選択したCさん

■成果（○）と課題（▲）

- 単元の学習計画をデザインし直したことで、生徒が時代を大観する上で必要な視点（どのような政治が展開されたか等）を明確にすることができた。教師側にとっても、常に「時代を大観する」という視点で授業を展開することができた。
- まとめ方を選択できるようにしたことで、生徒自身が自分に合った方法を見付け、学習調整する姿が見られた。
- ▲単元の終末にまとめの時間を設けるためには、基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に選んで指導内容を構成する必要があるが、その判断が難しい。
- ▲複数の歴史的な視点に着目しないと、「多面的・多角的に考察・表現」することにはならないため、「どのような政治が展開されたか」以外の視点に着目できる工夫（キーワードの分類など）が必要であった。